



ソウル大学 応用老年学・退職研究センター所長  
**Gyounghae Han 氏**

## より良い高齢期を迎えるための教育とは

こんにちは皆さん。今日はお招きいただき、本当にありがとうございます。すごくうれしく思っております。今日はですね、私が普段どんな取り組みをしているのか、またソウル大学がどんな取り組みをしているかについてお話ししようと思っております。韓国も日本と同じように高齢化社会がどんどん進んでいる状態にあります。色々な問題があるのですけれども、例えば高齢者の貧困の問題であるとか、高齢者ケアのことなど色々あるのですが、今日は短い時間ということで限られた内容についてお話しすることにします。

皆さんご存知かと思いますが、従来の大学の機能がどんなものかという、教育、研究、奉仕活動というものがあります。この3つが従来の大学の機能となっていたのですが、高齢化社会が進む中で、大学から必要とされるものがどんどん増えてきています。

- ▶ Traditional function of university :  
Research / Education for the Young / Service
- ▶ Emerging role of university for aged society
  1. R&D center for active aging and translate scientific knowledge to the community
  2. Re-education center for the retired or to be retired on the basis of Active Aging Paradigm
  3. Platform for intergenerational service learning

例えば社会が求めるものの1つとして、大学というものは研究を通して、その知識を地域の方々に供給していくことが期待されています。2つ目の目標として、定年退職をされた人たちに再教育を行うということも求められております。3つ目の大切な要素とし

て多世代がいろいろな事を学ぶような場所を提供するというのも大学に求められています。高齢者と若い人たちが交流を持ちながら、何かしていくということが求められています。

大学と産業を繋ぐ研究ということで、例を挙げさせていただきます。産業界としまして、この高齢化社会にすごく興味を持っているのですが、実際どのように高齢化社会においてどうビジネスをしたらいいのかわからない状態にあります。例えば、医療なんかの知識なども求められております。1つ目の例がソウル大学で行われている、ベビーブーマーのパネル調査の研究があります。韓国ではベビーブーマーについて相反する意見もあります。どのように相反するかということですが、1つは高齢者が社会の負担になるのではないかという意見、もうひとつが高齢者は消費能力があるから大事なのではないかという2つの対立する考えがあります。



2010年から集めているデータになるのですが、これはメットライフという会社のサポートを受けて行った、縦断研究になります。3年分の調査がおわったところです。この調査ではいろんなことを調査したのですが、たとえば「定年後の生活で不安なことはあり

ますか」と聞きました。私たちがびっくりしたことは定年後に自分が生産性のある人間でいられるかどうかということに不安を持っている人がすごく多かったことです。おそらく経済的不安についてあげられる人が多いのではないかと思っていたのですが、社会の一員であるということに重要性をおいている高齢者の方が多いことが驚きでした。このようにいろんなことが少しずつわかってきました。私たちとしてはこの結果に基づいて、定年退職をするにあたってどんな準備をしたらいいかという指標をたてました。その調査の結果からは、韓国の定年者の方たちは定年退職の準備が出来ていないということがわかります。どのくらい準備ができていないかと、だいたい60%くらいしか準備が出来ていないということです。

この調査を基にしてどんなことが出来るかということを考えてみると、教育というものが一番大事じゃないかと私たちは思っています。その「教育」は大学で出来ることということで、どのような教育をすれば、より良い高齢期をみんなが迎えることが出来るのかということを考えていくつかのプログラムを立てました。

## 一般人を対象にしたサードエイジ大学(U3A)



今日は3つのプログラムを紹介します。まず紹介するのがサードエイジ大学(U3A)というプログラム、そのあとに他の2つのプログラムを説明します。3つプログラムがあると紹介したのですが、それぞれのプログラムは対象者が異なるものになっております。1つ目のサードエイジ大学は一般人を対象にしているという風に考えてください。自分が高齢者と言われたくないという人たちがここにいます。より学びたい、勉強したい人たちがここにくるということになります。サードエイジ大学というのはイギリスやフラ

ンスで始まり、いまや世界中に広がっています。効率的な学びの場所として使われています。ここに定義を紹介するのですが、サードエイジというのは定年退職後に家族や社会的地位から解放された人を意味しているように定義されているのですが、私たちはできれば「Old」という言葉を使わずに定義したいと考えています。

ソウル大学の応用老年学・退職研究センターではサードエイジ大学をコミュニティーサービスのプログラムの一環として設置しました。サードエイジ大学の目標は中年期の人たちが活動的で幸せな高齢期を迎える準備をするということでありです。このサードエイジ大学、韓国では2006年から始められました。2006年から構想は立てられたのですが、実質的に機能し始めたのは2009年からになります。2010年に1期生が始まって、いま7期生の募集が始まっています。

サードエイジ大学は1年間のプログラムで、2学期制になります。26週間行われるものです。講義は毎週水曜日の午後7時～9時ということでソウル大学の講義室を使って行っています。毎年100人定員を募集するのですが、そのうちの15%がソウル大学の雇用者のために割り与えられています。とうことで奨学金やサポートなどもあります。卒業証書もらうためには最低70%以上の講義に出席しなければいけないということと、レポートの執筆というものが義務づけられています。すべてのプログラムを終了するとソウル大学の総長から卒業証書が授与されます。みなさんにどうものか色々紹介したくてパンフレットなどを掲載したのですが、残念ながら、ほぼ韓国語なので、少し日本語のリストをつけたのですが、見ていただけたらわかると思いますが色々なことを行っています。1年間のプログラムなので学生はいろいろなことを学ぶことが可能となっています。

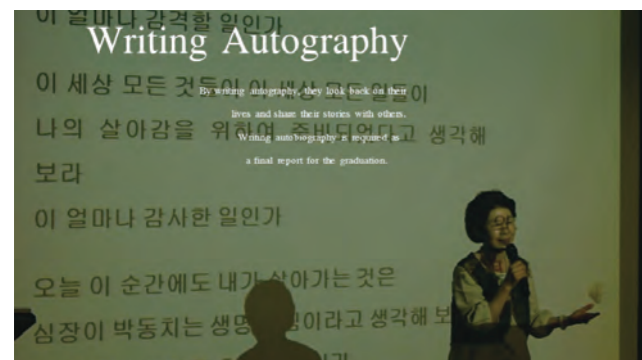




これは入学式の写真になります。ほとんどの韓国人の男性は仕事をメインに生活してきているので、お友達やソーシャルライフがないまま来ている人が多いので、入学式で自己紹介をしながら、新しい関係性などを築こうとしています。写真を見ていただいてもわかるかとは思いますが、みなさんすぐもう一度学べるということに喜びを感じています。笑顔がたくさん教室で見られます。やはり学べることへの喜びを感じるのには良いことだと思います。



退職後どのような生活をしていったらいいかということ学ぶのも1つの目標なのですが、それ以外にも友達をそうやって作っていくのかとか、コミュニティーの一員として生活していくのはどうしたことなのかということも学んだりします。授業は教室内だけで行われるものではなく、色々なアクティビティーなども組み込んでいます。写真を見ていただいたら、どれだけ皆さんが楽しんでいるか一目瞭然かと思えます。卒業するにあたり必ずやらなければならないこととして、自叙伝を書くというものがあります。この今映っているスライドの女性は自分の人生を詩にして、皆さんに発表しています。もうひとつの例として、ご夫婦で自叙伝を書いた人もいらして、その方たちが書いたものはとても有名になり、本にもなって、本のタイトルは「ターニングポイント」となって、今すぐ売れた本ということで、ツアーをして本の宣伝をしている状態です。

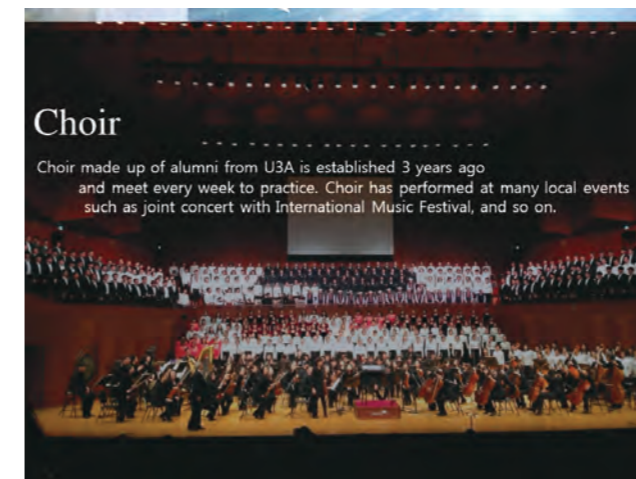


サードエイジ大学のもうひとつの良い点としては、卒業してからも学生同士が関係を持って、サポート・ネットワークとして続けていけるということがあげられます。サードエイジ大学に来た人たちは、先ほども話した通り、「Old」、年をとったとあまり呼ばれたくないというのがある、シニアセンターなどにも行ったりなんかしません。お互いに学校を通して友達になった人たちが登山をしたり、旅行をしたり、ダンスしたりなど色々なアクティビティーをしています。



このもうひとつの大きなグループとして、このコーラスグループがあります。これは3年前に撮られたのですが、すごく大きくなって、いろんな地域のイベントなんかにも出ています。いま写真に写っている人全員が卒業生ではないのですが、卒業生はどれかという左の上のほうで歌っている人たちがサードエイジ大学の卒業生になります。週に1回会ってこと自体は彼らにとってすごく楽しいことなのですが、それだけではなく何かコミュニティーのために貢献したいという気持ちも強く持っていて、そのひとつの例として子供たちと一緒に歌を歌うことをしているのですが、今ここで一緒に歌っている子どもたちは何かしらちょっと大変な思いをしている子どもたちであったりします。

このような子どもたちと一緒に歌ったり、時間を過ごすということでも何か社会貢献をしようという姿勢があります。今見ていただいている写真なのですが、これは2013年に行われた学会でのことなのですが、この時に韓国のサードエイジ大学のプログラムの紹介などをしたのも、この卒業生たちです。卒業生たちが全部英語のパンフレットなんかを作ったりして、世界にどんなことをしているのかということを紹介しました。先ほども申し上げてますように、やはり社会貢献ができるということがすごく大事だとい



うことで、サンタクロースの格好をして、子どもたちにプレゼントを配りに行ったりとか、ホームレスの人たちにご飯を配りに行くボランティアなんかにも参加しています。

## ビジネスマン向けの 上級プログラム

### SNU Advanced Program for Well Aging-Senior Business



いままではU3Aというサードエイジ大学のプログラムだったのですが、いまからは別のプログラムについて紹介いたします。これはウェルエイジング・シニアビジネスのための上級プログラムということで、対象としているのは会社の社長さんであったりだとか、ビジネスマン向けのプログラムになっております。シニアビジネスというのは実はすごく深いものであるということを皆さんにお伝えしたいということで、一般的にシニアビジネス=オムツというようなイメージを持っている人がいるかと思いますが、そういうことではないのですよということはこのプログラムを通して伝えたいと思っています。先ほども言いましたとおり、このプログラ

ムは会社の社長さんなんかを経験したことがある人で何か新しいビジネスを始めたいという人たちのプログラムです。また、急速な高齢化について学びたい人たち向けのプログラムでもあり、特に政策なんかに関わってくれている方々に受講していただければ良いかなと思います。

こちらのプログラムも2学期制の1年間のプログラムで、全部で28週間行われます。講義を通して、高齢者に関する最新の研究結果や仕組みやビジネスの傾向がどんなものであるのかということの学ぶことが出来るようになっております。学生はチームプロジェクトを行ったり、学会に参加したり、高齢者産業の見学をしたりということが出来るようになっております。3つ主要なカリキュラムを紹介すると、1つ目は高齢消費者の需要と供給ということで、人口構成とビジネスの傾向が変わるといこと、高齢者政策に関する問題などをカリキュラムの中で取り上げています。

このプログラムに参加するとどんなメリットがあるのかということ、まず3つありまして、1つ目が新しいビジネスを始めるチャンスを得ることが出来ます。2つ目はシニアビジネスに興味を持っている人たちのネットワークを作ることが出来ます。3つ目は成熟市場の産業界のリーダーとなることができます。私たちがこれを通してなにが言いたいかというと、高齢化というものにはビジネスだということを読んで欲しいということです。今年で3年目、今は4年目の生徒を募集しているのですが、今の段階で181人の方がプログラムを修了しました。このプログラムもやはり社会貢献というものすごく意識しています。どんな風にするかということと高齢者研究を行っている人たちに寄付金を出したりとか、大学生や院生に奨学金を出したりとか、経済的に苦しんでいる高齢者のためのボランティア活動なども行っています。

#### Main contents of curriculum

- Needs and demands of senior consumer and age related changes(ARC)
- Changing demographics and business trends
- Aging policy issues

#### AWASB participants will acquire...

- Leading-edge opportunities to develop new frameworks and insights on mature market
- Connections with colleagues and experts who share similar interests in senior business
- Develop an expanded sense of themselves as enterprise leaders in mature market

: They learn that **Aging Means Business**



## ソウル大学と保険会社が 一緒になって始めたプログラム



Institute on Aging, Seoul National University,



では次に3つ目のプログラムをご紹介します。これはソウル大学と保険会社が一緒になって始めたプログラムになります。どうしてこのAIAという保険会社が私たちと一緒にやらないかといってきたところからお話すると、まず私たちは先ほどお話ししたプログラムでメットライフという別の保険会社さんとファイナンシャルプランナーの授業などをしてきています。それがとても好評であったということが耳に入ったということで「私たちにも何かやらせてくれないか」ということで今回のお話が始まりました。高齢者が増えるという状況の中で高齢者を対象としたマーケットみたいなものがすごく普及してきています。ファイナンシャルプランナーの人たちが何かいろいろやろうとしているのですが、実質のところ、高齢期というものの知識であるとか、どういう商品を扱ったらいいのかということがわからないで入ることが今の現実です。



このプログラムを通して、AIAという保険会社とソウル大学ではそれぞれ別のやりたいことがあります。保険会社としては高齢期の知識というものを得ることによって商品売りたいという思いがあります。大学としては、正しい高齢者の知識というものを普及させりことで社会に貢献していきたいと思っています。今見ていただいているのが、このプログラムのカリキュラムになります。いくつかのカリキュラムに関しては授業料を払わなければならないのですが、ほとんどのものがAIAの会社のほうから支給されるようになっています。一般的に定年退職後のプランと聞くと経済的にどういふうにやっていけばいいのだろうか考える人が多いかと思いますが、いまこのカリキュラムを見ていただいてもわかるように私たちの提供しているプログラムでは健康についてであるとか、社会生活についてであるかという風に経済面以外の事を学んでもらうというようにプログラムを作っています。

この写真をみていただいてもわかるかと思いますが、今見ていただいているのは卒業式の写真ですが、だいたいこのプログラムに来ている人たちって言うのは30代後半の人たちで定年退職後の保険のプランを売るぞってことですごく知識を得ながら、やるぞっていう意気込みでできています。すごく幸せな顔をしているのがわかるかと思いますが。



## 韓国最大の投資会社と 始めたプログラム

最後に4つ目に紹介するプログラムがNEインダストメント、投資会社とやっているプログラムです。これはどうして始まったかという、このNEインダストメントの投資会社の人サードエイジ大学に見学に来た。その時にすごく感動して、私たちも入りた

## SNU-NH IS Joint Education Program for Happy Aging



Seoul National University - NH Investment & Securities

というお話があったのですが、色んな人間関係上無理だということでお断りをしたら、じゃあ私たちのほうでもプログラムをやらせてくれないかということで始まったのがこのプログラムです。このNEインダストメントという投資会社は韓国で一番大きな投資会社になります。VIPの人たちと私たちは呼んでいるのですが、彼らはとってお金も持っています。でも高齢期とはなんなのかとか、そういうことはまったく知らない人たちと理解していいと思います。

2012年の5月にお声掛けいただいた時点から始まり、今は3年間の契約だったのですが、いまその契約が終わって、現在は更新の手続きを行っている状態です。このプログラムでも教育をするということを重点的に行っているのですが、できるだけ健康や身体的なことだけでなく、どんな風にすれば社会貢献できるかということも学んでもらおうという形でプログラムを進めております。このプログラムは1学期間、6週間で進められるプログラムになっております。年に2回春と秋にあるので、どちらにでも参加することは可能です。今の段階で500人以上の方が参加しています。

いま3つプログラムを紹介したのですが、この全てのプログラムで、WHOによって定義された「アクティブエイジング」のパラダイムを参考に作られています。私たちはこの3つともプログラムはウィンウィン・シチュエーションということでソウル大学とそれぞれのパートナーカンパニー両方もが利益を得ることが出来るプログラムであると信じています。

## サクセスフルエイジングが 社会に貢献すると信じています

これらのプログラムはある使命をもって行っています。つまり、サクセスフルエイジングというものを、人生を通してみるということ意識してやっています。幸せに活動的に年をとるにはどうした

## In Conclusion

- Above mentioned SNU programs are based on "Active Aging" Paradigm defined by WHO
- Main theoretical framework for the programs are Life-span/ Life-course perspective on successful aging
- We expect these programs distribute scientific knowledge about aging to the community and help people prepare for their later years based on scientific facts, not on the negative stereotypes of aging and elderly.
- We expect seniors who learned about their civic responsibility through these programs contribute to the community and become valuable asset to the society, not to be the burden.



らしいのかということですが、私たちは自分のことだけを考えるのではなく、社会にどうやって貢献していけるのかということだとか、世代性なんかも考えていく必要があると信じています。

3つ別々の会社がプログラムに協力してくれていたのですが、会社の人たちもすごくこのプログラムをやった良かったと言っています。なぜかという、まず会社のセールスが上がったということが1つ、セールスが上がればお給料も上がるということで社員の人たちも喜んでます。そういった教育プログラムに参加させてくれた会社に対して感謝の念を持つようにもなっているということです。大学側として良かった事として、まず1つ言えることが、世代間交流というもの自然な形で供給することが出来たということです。

最後になんです大学側からすごくラッキーだと思っていることがあります。それは提携している会社はすごく大きな会社であって、たくさん寄付金なんかくれるので研究なんかもすごく潤って



きたということがあります。そういった面でも良かったなと思います。これで私の発表を終わらせていただきます。ご静聴いただきありがとうございます。